

東区、よかまち・よかところ **歩・歩・歩**

東区歴史街道を往く



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

Vol. 5

東区歴史ガイドボランティア（さんぽ会）の おすすめスポット（市政だより東区版に連載）

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

目次

エリア	掲載月	タイトル	ページ
箱崎・馬出			
箱崎	29年7月	宮崎宮境内の「唐船塔」	4
馬出	12月	馬出 十六宵姫の話	5
馬出	30年7月	失われた博多大仏「稱名寺」	6
馬出	31年2月	恵光院の燈籠堂	7
名島・多々良			
名島	29年9月	名島城三之丸跡碑	8
名島	30年4月	名島妙見島の面影	9
名島	9月	国の登録有形文化財 名島橋	10
香椎			
蒲田	29年8月	蒲田周辺の古墳群	11
舞松原	30年2月	ホタテ貝の形の舞松原古墳	12
香椎	8月	貞明皇后行啓記念碑	13
香椎	31年3月	香椎宮炎上	14
和白			
上和白	29年6月	高藤溜池の底樋と和釘	15
和白	11月	和白郷土資料室を訪ねて	16
上和白	30年6月	白川稲荷神社と伊藤小左衛門	17
上和白	11月	上和白「龍華山 明覚寺」	18
志賀島・西戸崎			
志賀島	29年5月	志賀島莊厳寺の子育・水子地藏尊	19
西戸崎	10月	時代を見続けた JR 西戸崎駅	20
志賀島	30年5月	志賀海神社の山の神	21
志賀島	10月	志賀島の「海辺の古墳」	22

あいさつ

東区長 山方 浩

東区歴史ガイドボランティア連絡会（愛称・さんぽ会）は、東区内の地域の歴史を広く市民に紹介し、伝承していくことを目的に、区内の史跡を案内するボランティア等の活動をされています。平成21年5月から市政日より東区版に連載している「歴史さんぽ・ボランティアのおすすめスポット」は、同会から寄稿していただいております。東区の魅力発信に寄与していただいております。

今回、平成29年5月から2年分の連載をまとめた「東区歴史街道を往く^{Vol.5}」を発刊しました。地域の史跡を巡るガイドブックとして、ご活用いただければ幸いです。

最後に、本書の発刊にあたり、ご尽力いただきました「さんぽ会」の皆様には厚く御礼申し上げます。

「さんぽ会」会長 加藤 徳生
東区は、海や山などの自然に囲まれながら新しい息吹を感じる街が誕生し、長い歴史が刻まれた寺社・仏閣を始めとした文化的遺産が数多く残されています。

「さんぽ会」は、10年前にこれらの貴重な歴史を知り、学ぶだけでなく、多くの方々に大切な遺産を伝えていく活動を目的に結成したボランティア組織です。

本冊子は、市政日より東区版に「歴史さんぽ・ボランティアのおすすめスポット」として掲載された記事を編集したものです。これも毎回関係者の度重なる協議の結晶といえます。東区の歴史的文化的遺産を広く知り、真の福岡市（東区）のファンになつてもらうため、多くの方々に本書を読んでいただけたら幸甚です。

改めて、ご尽力を賜りました関係者の皆様
に心より深謝いたします。

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

宮崎宮境内の「唐船塔」(箱崎)

宮崎宮境内の「一の鳥居」に入っ
てすぐ右側の竹垣に囲まれた庭に
「唐船塔」と立て札のある五重の
石塔があります。この塔の由来が、
謡曲「唐船」のもとになっています。

日本に捕らえられた唐人
そけいかにん
祖慶官人は、箱崎殿(宮崎宮大宮
司)に仕えました。地元箱崎で妻



手前2つの石が「夫婦石」で、奥
の右の石塔が「唐船塔」

を迎え、2人の子どもと平和に暮
らしていました。13年後、父の祖
慶を捜しに唐から2人の子ども
が、身代金となる高価な貢ぎ物を
携えて来ました。唐の子どもが、
箱崎殿の許しを得て父を連れて帰
ろうとすると、今度は日本の子ど
もが別れを悲しんで引き留めま
す。父の祖慶は、子どもたちの板
挟みとなり苦悩します。箱崎殿は、
日本の子どもも連れて帰ることを
許します。父子5人は、船中で喜
びの樂を奏でながら唐へ帰ったと
いわれます。

唐の子どもは、もし父が死んで
いたら墓石にと五重の石塔を持参
しました。これがいわゆる唐船塔



唐船塔の手前には「夫婦石」と
名付けられた石が2つ並んでいま
す。この石は、祖慶と日本の妻が
腰を下ろして別れを惜しんだと伝
えられています。その側に聖福寺
の住持・仙厓が詠んだ歌の石碑が
あります。

「箱崎のいそへの千鳥親と子と、
なきにしこえをのこす唐船」(石碑)

【案内人】 奥永 茂晴

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

馬出 十六宵姫の話 (馬出)

箱崎一帯が「葦津の浦」と言われていた平安時代の話です。

元慶4（880）年8月16日の夕刻、漁師の家に女の子が生まれました。陰暦8月16日の夜のことを十六夜いざよひと呼んだことから、十六宵と名付けられました。



鳥居の左奥に井戸があります

美しく成長した十六宵のうわさは宇多天皇の使いの耳にも入り、13歳のときに官女として都で宮仕えをすることになりました。後に、朝廷の警護を務めていた武士、高丘蔵人金平たかおかくらんどかねひらに想いを寄せられ、夫婦の契りを結び、十六宵の故郷箱崎へ帰ります。

子ども2人に恵まれましたが、延喜3（903）年、菅原道真公の死後、警護を任されていた夫婦は報告のため都へ上ります。子どもたちは父母に預けたまま、その後出家し、須磨（現在の神戸市）辺りで一生を終えたと伝えられています。

十六宵が幼い頃、清水湧く小池



を水鏡にして髪をとかし、身だしなみを整えていたことから「鏡の井」と呼ばれた井戸が、馬出二丁目おきなわけしんじやの翁別神社境内に残っています。

【案内人】蒲池 裕子

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

失われた博多大仏「稱名寺」(馬出)

稱名寺(馬出四丁目)は、弘安7(1284)年に創建された市内でも数少ない時宗の寺です。寺には、かつて「博多大仏」があり、市民に大変親しまれていました。

博多大仏の建立は、明治22(1889)年に神戸の能福寺から大仏の頭を譲り受け、これにふさわしい体を造ろうと思いつたことに端を発します。

住職、門徒衆が奔走し、多額の寄付金の他、^{ちゅうぞうざう}鑄造資材として青銅製手鏡の寄進を呼び掛け、4万5千余の青銅鏡を集めました。譲り受けた頭部も鏡も^{いっしょく}鑄潰して、明治42(1909)年、ついに博多大仏が完成しました。



ありし日の博多大仏
(カラー化を行ったもの)

大仏は、当時旧片土居町(現下川端)にあった稱名寺に安置され、その後、大正9(1920)年、寺の移転とともに現在の馬出に移されました。

当時の女性が大切に使用していた鏡を大量に鑄潰して建立され、人々が誇りにした博多大仏でしたが、昭和19年(1944)年、戦時下の金属供出命令により、失われてしまいました。



現在も残っている台座

今は、主を失った基壇と台座が往時の面影を伝えています。

【案内人】 西郷 壽太郎

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

恵光院の燈籠堂（馬出）

恵光院（馬出五丁目）は、寛永年間（1624～1644）に創建された真言宗のお寺で、その境内に燈籠堂があります。

燈籠堂は、もともと宮崎宮の参道筋にありましたが、維新政府の神仏分離令により明治3（1870）年に恵光院に移設されました。

承元2（1208）年に建立された当時は、三重閣のお堂で、上閣に燈籠を掲げ、それぞれに観音様が安置されていました。寛政9（1797）年の修築で現在の二重閣となりました。

ご本尊は十一面観世音菩薩の石体座像です。この観音様は、箱崎



燈籠堂



十一面観世音菩薩の石体座像

の海中から出現したとの言い伝えがあり、中国南宋時代（1127～1279）の作といわれています。



博多の豪商・神屋宗湛そうつたんの茶会記『神屋宗湛日記』には、天正15（1587）年豊臣秀吉が箱崎に滞在した折、千利休が宗湛や嶋井宗室、柴田宗仁らとこの燈籠堂で茶会を催したと記されています。

燈籠堂の前には、樹齢約200年といわれる菩提樹があります。6月には見事な花が咲き、「菩提樹まつり」の際には、普段は見られないご本尊の観音様を拝顔することができま

【案内人】 山辺 信男

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

名島城三之丸跡碑（名島）

名島城は、天文年間（1532～1555）に立花城の出城（主要となる城から離して築いた城）として、立花城主立花鑑載が築いたといわれています。

天正15（1587）年、九州平定を果たした豊臣秀吉から、筑前国や近隣諸国を与えられた毛利氏の重臣小早川隆景は、出城を本丸・二之丸・三之丸に改修して居城とし、養子の秀秋が引き継ぎました。敵の侵攻を防ぐため、二之丸と三之丸の間を深い堀切で隔て、三之丸の土塁や土堀に、側面から弓や鉄砲で敵を攻撃できる横矢掛りという特別な工夫を施しました。慶長6（1601）年、立花城が廃

城となった頃、浦兵部宗勝が三之丸の城代家老となり、三之丸を居城としました。

三之丸の南端部にあった内堀は、大正9（1920）年に火力発電所（現名島運動公園周辺）ができる、そのまま発電所の貯水池として残りました。その後、貯水池は昭和30年末に埋め立てられ、昭和46年に「三の丸団地（名



島三丁目」が建設されました。三之丸跡の碑（写真）は三の丸団地の2棟と3棟の間を左折し、突き当たったところにあります。

【案内人】 安部 光征

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

名島妙見島の面影（名島）

名島海岸帆柱石の沖には、以前「名島妙見島」という小島が浮かんでいました。島の規模は東西約100m、南北約50m、標高10数mで、ふたごぶの小さな峰があり、干潮になれば200m程の距離を歩いて渡れました。かつて島は、名島神社の社領で「妙見神社」がありました。すぐれた視力の意味がある「妙見」は、北極星を神格化した「妙見菩薩」ともいい、妙見神社に祭つてあります。

『神屋宗湛日記』には、天正17（1589）年、小早川隆景が名島城を築城した際に博多の豪商、神屋宗湛や嶋井宗室らが築城を祝つて島で茶会を開いたと記され



妙見島を望む
（昭和30年頃）

現在の姿



ています。また、『太閤さま軍記のうち』には文禄元（1592）年、豊臣秀吉が朝鮮出兵のため名護屋城（唐津市）へ向かう際、名島城に滞在し島で茶会を催したと



あり、その時に使用したとされる井戸の跡が名島一丁目に現存しています。

島は民間所有となり、妙見神社は昭和58年に名島神社境内に移設されました。昭和40年代に島の北側と東側が埋め立てられたため、島の面影はなくなり、北はみなと100年公園、東は城浜団地となっています。

【案内人】 西郷 玲子

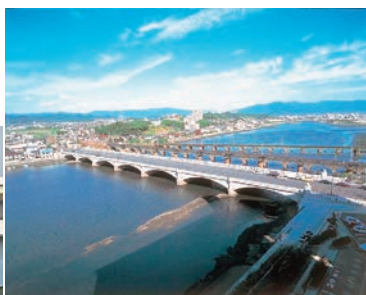
歴史

歩・歩・歩
さんぽ

国の登録有形文化財 名島橋（名島）

多々良川の河口付近に架かる名島橋が、平成30年5月に国の登録有形文化財に登録されました。七つのアーチが連なる長大な外観と親柱頂部の半球など古典的装飾を施した優美なデザインが、国土の歴史的景観に寄与していると評価されています。

初代の名島橋は、文禄元（1592）年、名島城主小早川隆景たかかげにより架けられました。現在の橋は3代目で、全長204.1メートル、全幅24メートルの鉄筋コンクリート製です。後藤龍雄氏の設計で、昭和8（1933）年に完成しました。しかし、白く目立つ外観ゆえに、戦時中は爆撃の標的になる恐



名島橋の全景



特徴である優美なデザイン



れがあるため、コールトールで黒く塗られ、照明灯も取り外されました。やがて人々の生活が安定するとコールトールは剥がされ、白い姿を取り戻しました。

平成6年に「還暦」を迎えた名島橋は、昭和8年の完成当時の姿に改修されました。地域のシンボルとして美しい姿を保存しようとして、現在も地域のボランティアによって清掃活動が行われています。

【案内人】 池間 夏子

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

蒲田周辺の古墳群（蒲田）

九州縦貫自動車道の福岡インターチェンジにほど近い、蒲田三丁目の部木八幡神社境内西側に、部木古墳群があります。この古墳群は、前方後円墳2基、円墳7基から成り立っています。前方後円墳である一号墳は、墳丘部の全長が約23mで、周囲に周壕や周堤が確認されています。二号墳は全長12mです。築造時期は古墳時代前期の四世紀ごろと考えられています。

縁起によると、部木八幡神社は、

弘安8（1285）年に現在の福岡インターチェンジ内にあった別火宮（神功皇后が神々を祭り祈願を行った場所）がこの地に移さ



部木八幡神社境内の古墳

れたものだそうです。境内には、市の保存樹となった巨木がいくつもあります。

神社近くの粕屋町には、約六千年前の縄文時代前期の遺構や遺物が出土した江辻遺跡群や、弥生時代のものと推定される平塚古墳も



あります。また、蒲田一丁目では中国製銅鏡が出土した前方後円墳の天神森古墳が、土井四丁目の名子道遺跡では、古墳の表面を石で覆った葺石古墳が確認されています。古代からこの地域には大規模な集落が形成され、人々が活発に活動していたことがうかがわれます。

【案内人】 森永 徹

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

ホタテ貝の形の舞松原古墳 (舞松原)

JR 香椎神宮駅から南西へ約600mの舞松原団地北側の丘陵に、4世紀末頃に造られた舞松原古墳があります。全長37m、高さ4mで、上から見るとホタテ貝の形のように見えることから「帆立貝式古墳」と呼ばれています。こ



古墳までの散策路も整備されています

の形の古墳としては全国的に見ても最も古いものの一つで、九州では最古の古墳です。

ここで、3mほどの丸太をくり抜き、抜き堅穴に埋める「木棺直葬」という方法で埋葬された棺が見つかっています。古墳からは、土器の二重口縁壺、鉄製農工具の斧、鍬先、鎌、刀子(小刀)が出土しました。このことから、この地域を治めていた首長の墓と考えられています。

古墳のくびれ部分からは、平安時代の「土壙墓」も見つかっています。土壙墓とは、遺体を棺に入らず布などにくるんで直接埋める墓のことです。そこから、国産の



鏡(瑞花双鳳八稜鏡)、中国製の青磁碗、土師器杯・皿などが出土しました。

現在この地は、歴史的・文化的に価値がある緑地として、市から「香椎ケ丘特別緑地」に指定され、古墳の杜として地域住民に愛されています。

【案内人】 濱地 美喜

ていめい
きょうけい
貞明皇后行啓記念碑 (香椎)

香椎宮入口の鳥居と道路を挟んだ反対側に「行啓記念碑」と書かれた大きな石碑があります。

香椎宮は、古くから皇室とゆかりのある神社です。大正10(1921)年、皇太子(昭和天皇)が欧州5カ国親善訪問へ出発する時にも、貞明皇后が使者を香椎宮に送り、航海安全を祈願させました。



貞明皇后の行啓記念碑



説明碑(昭和7年建立)

翌大正11年、大正天皇の病気の治癒祈願と皇太子が無事帰国したお礼に、貞明皇后は自ら香椎宮に行啓し、金色灯籠こんじきを奉納しました。石碑はこれを記念して昭和7年に建立されたものです。※金色灯籠は香椎宮宝物殿に蔵置(一般非公開)。敷地内には、昭和7年と13年に建立された2基の説明碑があり、時代背景や皇室と香椎宮との関係がうかがい知ることができます。

皇后自らの九州行啓は約1650年前の神功皇后じんぐう以来2人目であったことや、これにより大正14年に勅使参向(天皇の使者の派遣)が、60年ぶりに決定されたことなどが書かれています。

また、この行啓をきっかけに、県の助成で参道の大改修が実施され、これが今の「勅使道」となりました。

香椎宮へ参拝の際に、立ち寄りてみてはいかがでしょうか。



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

香椎宮炎上 (香椎)

かつて香椎宮一帯が炎上し、焼け野原になったことがありました。

1580年代の九州は、大友宗麟・島津義久・龍造寺隆信が三つ巴で覇権を争っていました。劣勢となった大友氏は、天正14(1586)年、豊臣秀吉に救援を求め、同年7月、秀吉と主従関係にあった黒田官兵衛・小早川隆景らが援軍に向かうこととなりました。その間、島津軍は龍造寺軍を配下にし、約3万人で進軍しました。

大友軍は、立花宗茂率いる立花城のみとなり、8月11日早朝から、島津軍の総攻撃が始まりました。

た。160人が守る立花城の支城・御飯山城に3千人が押し寄せ、香椎宮神人兵を含む立花勢は応戦しましたが、12日深夜には御飯山城から立花城へ撤退。13日からの1週間は、立花宗茂の指揮と家臣の働きにより持ちこたえました。

20日、秀吉の命を受けた援軍約1万人が関門海峡を渡り、また、豊後からも上陸したとの報告があり、全滅すると悟った島津忠長(義久の従兄弟)は撤退を決意しました。

龍造寺軍や島津軍に寝返った秋月氏配下の豪族からは不満が吹き出し、暴徒化しました。火をつけながら退却し、民家の食料などを



当時の勢力図

強奪。香椎宮にも火の手が上がり、一帯は一晩中燃え続けました。香椎宮の綾杉も燃えてしまいました。春になると若い芽が伸び、今の大木となりました。

【案内人】 桂 裕行

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

高藤溜池の底樋と和釘 (上和白)

高美台二丁目にある大神神社境内に、木製の底樋が展示されています。これは、高藤溜池の水を放水するための管です。ため池は、天和元（1681）年に築かれ、



大神神社の境内に展示されている底樋

池面積（約5千平方メートル）、灌漑面積（約12万平方メートル）の水田用水を確保して上和白地区の稲作を守ってきました。現在、福岡カンツリー倶楽部ゴルフ場（大字上和白）内にあります。

展示している底樋は、平成14（2002）年10月、高藤下池改修工事で取り替えられた一部です。樹齢約70年の松の原木を縦割りにし、通水断面を箱状にくり抜き、替折釘かいはれぎを使って元の丸太に組み合わせた管になっています。替折釘は、和釘の一種で、溶鉄を何度も鍛えたもの。軸の形は角張っていて、角釘ともいいます。

現在広く使われている釘は、数



十年でさびついてもろくなるのに対し、和釘は千年も持つといわれ、奈良の薬師寺再建にも使われています。

コンクリート製の土管・パイプ管など無い時代に、先人たちの底樋製作に対する知恵と技術、そして、ため池の水をいかに大切にしてきたかが伝わり、苦労がしのべれます。

【案内人】 中島 利幸

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

和白郷土資料室を訪ねて（和白）

近年の和白地域は、人口増加や産業構造の変化で大きく変貌しました。和白郷土資料室は産業の歴史を次世代に残すため、平成6年に和白公民館武道場（和白三丁目）の2階に開設されました。

旧和白町は、上和白村、下和白村、三苦村、塩浜村、奈多村の5村からなり、明治から昭和の初めまで、農業、養蚕業、漁業、製塩業などが発展しました。資料室は、当時の農機具や漁具、生活道具などを展示。農機具は、人力の道具が主体で、足踏み式の脱穀機や大型の台唐と呼ばれる臼が目を引きます。また、養蚕に関する装置で、蚕の繭から糸を取り出す糸繰車や



台唐と呼ばれる臼

機織り機も展示されています。養蚕業は、明治42年から三苦村で始まりました。国を挙げて養蚕に力を注いでいた時代のことです。しかし農業との兼業や蚕を育てるための手間、桑の葉を遠くから仕入れる苦勞などの理由で衰退し、昭和の初め頃には苺の栽培に変わっていきました。

時代とともに移り変わった地域の産業に関する展示物は、当時を



絹糸を織る機織り機

知り次世代に受け継ぐ貴重な遺産だと感じられます。

見学は、和白公民館 ☎606・3001 F606・5262 で午前10時〜午後5時に受け付けます。

【案内人】 山田 次男

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

白川稲荷神社と伊藤小左衛門（上和自）

黒田藩の財政を支えてきた博多の豪商・伊藤小左衛門一家が、禁止されていた海外交易を行った罪で処刑されたのは寛文7（1667）年のことです。

幼い小四郎と万之助の処刑を人々が哀れみ、2人は、萬四郎神社（博多区下呉服町1-28）に祭られ、墓は妙楽寺（博多区御供所町13）に建てられました。

一家処刑からおよそ270年後の昭和14年、一家の霊を静かに祭りたいと、小左衛門ゆかりの御手洗家の意向で上和自の「お汐井路」脇の小高い丘に分祀されました。これが白川稲荷神社の起源といわれています。



白川稲荷神社

一方、小左衛門の家族の処刑については、「黒田藩は幕府からの嫌疑を気にしつつも、藩主の信任が厚かった伊藤家への配慮から妻子3人は助命され、妻は他家の女に、幼い小四郎と万之助は他家



の養子となって、密かに生き長らえた」という言い伝えもあります。

【案内人】 柳瀬 英昭

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

上和白「龍華山 明覚寺」(上和白)

国道495号(旧3号線)和白

交差点から東の方に進むと、かつて人々が神様に差し上げるお汐井(塩)を取りに通った「お汐井路」と呼ばれる古道があり、その奥に立花といわれた集落(現和白東地区)が広がっています。

に改称しました。

仏堂は明治21(1888)年に

「福岡県寺院沿革史」等によれば、天正16(1588)年、立花城主立花宗茂が山門郡柳河(現柳川市)に国替えされたときに、家臣の小金丸虎政が、和白の地に下野(農人化)しました。正保4(1647)年3月、虎政の子・久左衛門は、早良郡次郎丸村にあった妙光寺をこの地に移し、立花にちなんで「龍華山 明覚寺」



仏堂の天女の額



新本殿(平成18年建立)



再建され、さらに新本殿が平成18年12月に建立されました。仏堂の中央には紙と漆で造られた竜が、左右の余間には「天女」の額が掲げられています。

また、立花の地に残されていた中世の文書の写しや製塩・山林関係の貴重な資料が、明覚寺の歴代住職によって収集・記帳され、「小金丸種尚資料」として市博物館(早良区百道浜三丁目)に97点収蔵されています。

【案内人】 酒井 孝司

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

志賀島莊嚴寺の子育・水子地藏尊（志賀島）

莊嚴寺は、聖一國師しやういつくにしによって弘安元（1278）年に開かれた歴史あるお寺で、志賀海神社の西側に位置しています。境内から一望する博多湾・玄界灘の眺めは絶景



たくさんのお地藏さんが並んでいます

です。

延命地藏尊を本尊とするこの寺で目を引くのが、前庭にある「子育・水子地藏尊」です。説明板には、「愛する子供の健やかな成長を祈り、水難・交通事故・病氣、そのほか不幸の為に、この世をさられた、幼子達、また悲しいさだめの故に、この世に生まれることなく旅立った魂を慰める」と記してあります。亡くした子の供養のために、毎年5・6組の親御さんが寺を訪れます。

子育・水子地藏尊のそばに、亡くなった子を用い奉納された、小さくかわいいお地藏さんが並んでいます。毛糸の帽子をかぶったお

地藏さんや、マフラーを巻いたお地藏さんもいます。お地藏さんに込められた子を思う親の心遣いなのでしょう。

「亡くなった子の供養をし、次に誕生する新しい命を大事に育ててほしい」と話す住職の言葉には、全ての子どもたちが健やかに育っていく社会になるようにという願いが込められています。

【案内人】 古賀 偉郎



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

時代を見続けたJR西戸崎駅 (西戸崎)

明治37(1904)年、糟屋地区の炭坑で掘り出された石炭を西戸崎港から運び出すために、博多湾鉄道が開設され、西戸崎駅が設置されました。開業当初は西戸崎駅から須恵駅までの13駅でしたが、翌年宇美駅まで延伸し、16駅(25・4キロメートル)となりました。

昭和17年、合併により西日本鉄道が設立され、西鉄糟屋線となりました。昭和19年、戦時買収で国有化され、さらに昭和62年には、国鉄分割民営化によりJR九州が継承。JR九州香椎線となり現在に至っています。

建設当初の駅舎は木造でしたが、その後石造りなど幾度も改築



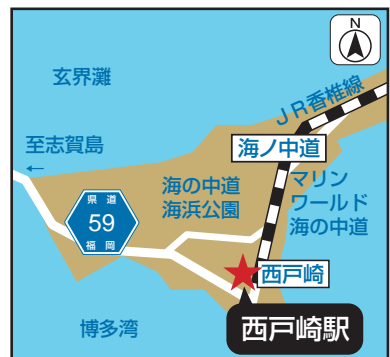
水戸岡氏デザインの駅舎

を重ねました。現在の駅舎は平成10年、ヨットをモチーフに水戸岡鋭治氏がデザインし、改築されたものです。昭和63年から平成4年まで香椎線で運行していた「アクアエクスプレス」も、水戸岡氏が最初にデザインを手掛けた車両で、キハ58系気動車を改造して

製作されました。

西戸崎駅の1番線右端に香椎線の起点を示す珍しい標識「0キロポスト(写真左)」が見えます。まさに香椎線の起点を表す標識となっています。

【案内人】 加藤 徳生



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

志賀海神社の山の神（志賀島）

海神の総本社として有名な志賀海神社ですが、神社の石段を上り詰め、山門に向かうと左手に「山の神」と書かれた額を掲げた祠ほらがあります。

海の神様の近くになぜ、山の神様がいるのかと不思議に感じますが、東北の漁師であり作家でもある畠山重篤氏の「森は海の恋人である」という名言があります。その意味は、山が豊かであれば海も豊かだということです。

志賀海神社でも、春と秋に行われる『山誉め祭ほほめまつり』では、「ああら良い山、茂った山」と山をたたえ豊漁を願う祭事があり、山と海に深いつながりがあることが分かります。



志賀海神社にある「山の神」の祠

ます。

また、レーダーの無い古い時代には、海の男たちは山を目印にして航海をしていました。蒙古襲来もうここうらいで活躍した河野水軍こうのすいぐんや後の時代に活躍した三島村上水軍おみやまづみも大山祇神

社（山の神の総本社）を厚く信仰したといわれています。

志賀海神社の山の神の説明板によると、使わなくなった財布を神前に奉納すると財運に恵まれると書かれています。神社に参拝するときは、山の神に使用済みの財布を奉納して、財運のご利益にあずかってはいかがでしょうか。

【案内人】 古賀 偉郎



歴史

歩・歩・歩
さんぽ

志賀島の「海辺の古墳」(志賀島)

自然豊かな森と海に抱かれた志賀島北西部の勝馬地区は、縄文・弥生時代から先人たちの生活の場でした。

勝馬地区の明神鼻と呼ばれる岬の丘陵地に仲津宮があります。

平成6年、市の行った調査で、仲津宮の前庭から、直径7センチほどの積石塚の古墳(中津宮古墳)が発掘されました。その石室からは須恵器の壺やガラスの玉や管、耳環などの副葬品が多数出土しました。

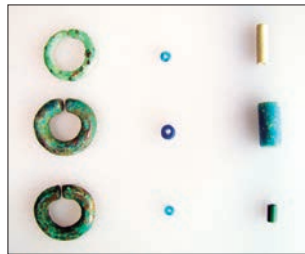
この中津宮古墳は7世紀前半ごろに作られ、勝馬に住む海人集団の首長の墓と考えられており、市内でも数少ない海辺の古墳です。

出土品は、市の埋蔵文化財セン



玄界灘を望む仲津宮

ター(博多区井相田二丁目)に収蔵されています。玄界灘と森に守られ千年以上の長きにわたる「島眠」していたのか、土器や耳環はずっしりと重く、ガラス玉のラピスブルーはひときわ鮮やかで、あたたかも当時のままのようです。



出土品(左から耳環、ガラス玉、ガラス管)



現在、古墳は埋め戻され、周囲の石段にその面影をわずかに残すばかりですが、風の音や潮騒に耳を澄ませて、古代の海人の声に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

【案内人】 城戸 重臣

表紙 写真の解説

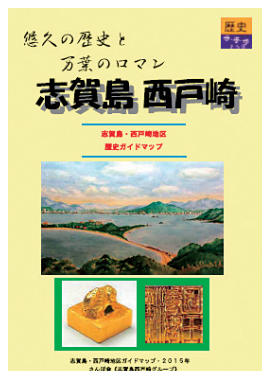
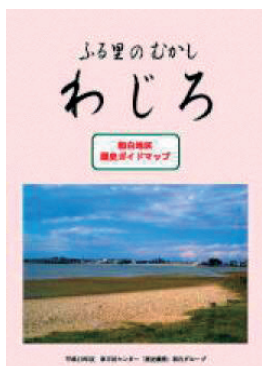
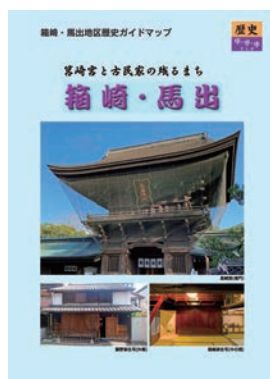
上段左：筥崎宮楼門の扁額 同右：香椎宮の勅祭

中央：国の登録有形文化財「名島橋」

下段左：大神神社参道正面 同右：国宝「金印」（福岡市博物館蔵）

東区歴史ガイドマップ

東区では「東区歴史街道を往く」の他にも、史跡の解説や位置図等を掲載したガイドマップをエリアごとに発行しています。東区役所となみきスクエア（千早四丁目）で配布中です。東区役所ホームページ（「歴史ガイドマップ」で検索）からもダウンロードできます。





(志賀島：坂本恒義氏作)

『歩・歩・歩（さんぽ）会』の愛称について

「新しい人たちと歩み、地域の人たちと共に歩み、ボランティアとしてのヨチヨチ歩きを始める私たち、この三つの歩みを積み重ねていきたい」との思いから、また、地域の歴史を楽しく散歩する意味から、三步と散歩で「さんぽ会」としたものです。

『さんぽ会』のホームページを公開しています。

URL: <http://e-sanpokai.rojo.jp/> 【検索名：さんぽ会TOP】

■編集 東区歴史ガイドボランティア連絡会（愛称・さんぽ会）

■発行 福岡市東区企画振興課

住所：東区箱崎二丁目 54-1

TEL：092-645-1012 FAX：092-651-5097

平成 31 年 3 月